

平成29年度「確かな学力の伸長を図る調査」(市)の結果分析

中学校第1学年・国語

東久留米市立 南 中学校

◇結果分析

＜観点別結果から＞

【確かな学力の伸長を図る調査】

- ・国語への関心・意欲・態度は全国平均値を2.9ポイント上回っていた。授業の様子を見ても、積極的に発言をする生徒が多く、班で意見をまとめる際にも活発な活動をすることができている。
- ・言語についての知識・理解・技能は2.3ポイント全国平均値を下回る結果となっていた。特に漢字の書き取りの全体的にできていなかった。
- ・「話す・聞く能力」は1.7ポイント、「読む能力」は0.7ポイント全国比を上回っていた。
- ・「書く能力」は1.4ポイント全国比を上回っていた。しかし、書く能力は個人差も大きく、苦手意識をもっている生徒がどのように克服していくかが課題である。

＜領域別結果から＞

【確かな学力の伸長を図る調査】

- ・「話すこと・聞くこと」は全国平均を1.7に上回るものの、小領域「適切な言葉を選び話すこと」については課題がある。
- ・「書くこと」は全国平均を0.7ポイントとわずかに上回る程度だった。文章を書く機会を増やす必要がある。
- ・「読むこと」は全国平均を1.4ポイント上回った。しかし、小領域では「説明的な文章を読むこと」に対し、「文学的な文章を読むこと」の得点率が低く、差が生じている。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質」は全国平均を2.3ポイント下回った。特に「漢字を覚え正しく使うこと」を苦手としている。

◇課題

- 漢字の小テストを定期的に行い、漢字を書かせて習得できるように指導していく。
- 語彙力を高め、文章による表現を豊かにする必要がある。「書く能力」は感想文など書く機会を増やし、取り組ませる。
- 文学的な文章を授業で取り扱う際、質問や課題を工夫し、理解度を高めたい。

平成29年度「確かな学力の伸長を図る調査」(市)の結果分析

中学校第1学年・数学

東久留米市立 南 中学校

◇結果分析

＜観点別結果から＞

【確かな学力の伸長を図る調査】

- ・数学への関心・意欲・態度は全国平均よりも2.6ポイント上回っていた。
- ・数学的な見方や考え方はわずかではあるが、全国平均よりも0.3ポイント上回っていた。
- ・数学的な技能は全国平均よりも0.3ポイント下回っていた。
- ・数量や図形などについての知識・理解は全国平均よりも0.3ポイント上回っていた。

＜領域別結果から＞

【確かな学力の伸長を図る調査】

- ・「数と式」は全国平均よりも0.3ポイント下回っていた。
- ・「図形」は全国平均よりも0.1ポイント上回っていた。
- ・「関数」は全国平均よりも0.9ポイント下回っていた。
- ・「資料の活用」は全国平均よりも1.8ポイント上回っていた。

◇課題

- ・全国比とほぼ等しい得点率ではあるが、例年の南中学校の1年生に比べると、算数の基礎・基本が定着していない生徒が多く見られる。分数や小数の概念、平面図形・空間図形の認識力が乏しい。
- ・基礎・基本の定着を確実に図るために、計算練習や基本問題、毎時間の復習を欠かさないようにしたい。